

全科協ニュース

平成元年9月1日発行
(通巻第109号)

全国科学博物館協議会

東京都台東区上野公園

国立科学博物館内

☎ 110

Tel. 03-822-0111 (大代)

Fax. 03-824-3298

おもな内容：◇アメリカの博物館視察 国立科学博物館展示課長 白井 高

◇全科協米国科学系博物館視察研修報告(4)

◇全科協 北から南から

アメリカの博物館視察

国立科学博物館展示課長 白井 高

先般、アメリカ合衆国の科学系博物館を視察する機会を与えて頂き、サンフランシスコ、デンバー、ワシントン、ボストン、ニューヨークの各地を2週間余りをかけて巡り、博物館など10数か所の視察をしてきました。

見学施設のうち科学系博物館について、特徴点と思われるところを記し、併せて見学施設の概観を私見的にまとめてみました。

カリフォルニア科学アカデミー

サンフランシスコ市ゴールデンゲートパークの中にある。

当館の創設は、大陸西側では最も古く1853年であるが、創設当時の建物は1906年の地震と火災のため壊れ、1916年に現位置に再建された、平家建ながら十分な広さをもって豊富な標本を展示している。

一般の展示の他に魚の飼育展示、プラネタリウム、オーデトリウムが設置されている。動植物は、ジオラマを使って大陸あるいは地域の生態を特徴的に展示している。

ジオラマは、間口も広く奥行きも深く、入館者に情報を与えるのに十分な標本を吟味して用いている。中でも、アフリカ・サファリではジオラマの中に入ることができ、照明と動物の鳴声の変化により、一日の変化を表し、また、ワイルド・カリフォルニアでは、海獣が吠える声を聞きながら、その間を歩き臨場感を満喫でき、身近かに観察できる。

鳥類の展示室では、壁面のジオラマで生態的な展示を行い、中央には、分類展示を行い、1つのフロアで多面的な見学ができるようになっている。

「The Far Side Science」というGARY LARSONの漫画を常設で展示したり、訪れた時には、Human cultureの展示室内に仮のステージをつくり民族舞踊のイベントを行っており広い活動を展開していた。



カリフォルニア科学アカデミー

エキスポラトリウム

ゴールデンゲートの袂に所在するユニークな博物館である。フランク・オッペンハイマー博士(1912~1985)により1969年8月に創設された。その名が示すとおり「探検・探求」を展示に取入れた博物館である。

博物館と言うよりは、大規模な理科の実験室と言ったほうが適切かもしれない。9,700 m²の建物のなかに、展示室、実習室、売店、工作室、事務室、倉庫更に200席の劇場を擁している。

内容は、光、色、音、音楽、運動、電気、生命その他様々な自然現象を対象に研究、展示物の開発、試作、製作、展示および展示物の解説を行い、また、展示品の貸出し販売など多角的な運営を行っている。

600点余りの展示品の一部を紹介すると、水蒸気による竜巻、水槽に光を透過し熱対流を映像で見せる、木片によるアーチ組立て、鏡による錯覚、風速と圧力の実験装置、波動の回折・共鳴の実験装置、など実に多彩であり、全ての展示品は“手で触れ自分で実験する”参加型の展示である。また、展示室の一角では牛の眼球を解剖し、子どもたちに目のしくみを解説するなど、その時々

に応じた教育活動を展開している。

当館には、科学者、教員、画家、技術者などの職員が108名おり、それぞれにグループをつくり年間30品ほどの展示品の開発を手がけ、そのうち15品程が新しい展示物として作り出されている。1つのものを完成させるまでに、細かいところの一つ一つの実験の積重ねに多くの金と時間を費やし、また、組立て上げることに主眼点をおき、あまり丁寧には作られていない。素朴ではあるが如何に多くの自然現象を単純明快に解説するかということへの意気込みが感じられる。

館内には、館の職員と40名ほどのボランティアが配置され、入館者の実験の助けをし適切な指導を行っている。

館の運営予算は、\$6,818,000（1988）であり、収入のうち製品販売・賃貸等 \$1,182,000、また支出のうち展示開発 \$1,439,000 であり、ともに予算額の20%程度を占めており、この面からも当館の特殊性が読取れる。

また、年間の入館者は約50万人であり、その年齢層は、大人が70%、18歳未満が30%であり、展示全体が単に子どもの興味、関心だけでなく、自然科学の原理への多面的な取組みに、一般人からの広い関心ももたれている。

ローレンスホール・オブ・サイエンス

サンフランシスコ市中心からベイブリッジ渡ったところ、カリフォルニア大学に隣接して設けられている。

メインフロアには、動植物、運動、エネルギー、など自然界の現象を、主として実験装置により理解できるように展示している。地階には、実験室を教室設け教育活動を行っており、博物館に教室を取入れるようになった初期のものだそうである。

デンバー自然史博物館

デンバー市の東方シティーパークの一隅に所在し、ロッキー山脈を遠望できアメリカの大自然に抱かれた如何にも博物館らしい佇いであり、1908年にオープンした47,000㎡の広さをもつ合衆国内有数の自然史館である。

コレクションは非常に豊かであり、殊に鉱物の標本は、量が豊富であり、質が高い。また、コロラドの金の収集および1万カラットのトパーズも見事である。

標本点数は、38万点にも及び、86あるジオラマは、幅10m近く高さも床面から天井まであり、広くかつ奥行きも深く、臨場感を抱かせるものとなっている。

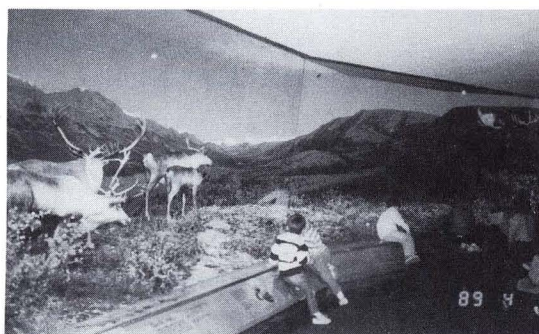
展示室内の床は、カーベットのような軟らかい仕上げになっており、先生が子どもたちを大勢引連れてきてジオラマの前に座らせて、大きな声で教え、子どもたちも丸い目を大きくして静かに聞入っているのが、印象的だった。

館内では、職員、ボランティアが親切な解説を行い、展示室内に恐竜のボーンベッドから採取したばかりの化石の一部を持込み解説しながら化石の発掘、修復を行うな

ど、興味深い教育活動を行っている。

これら自然史の標本を主体とした展示の他、「リターン・オブ・ザ・ダイノソー」の展示室を設置し、白亜紀の自然環境の中に、主だった恐竜が数体うごめき吠えている。さらに、IMAXシアター、プラネタリウムなど整備され、きれいで明るく爽やかな博物館である。

年間140万人～150万人の入館者があり、170人の職員と年間約\$1000万の予算で運営されている。



デンバー自然史館

スミソニアン研究機構の各博物館は、ワシントン市にある合衆国議会前のモールを中心に配置されている。

同研究機構は、自然史博物館、航空宇宙館、アメリカ歴史館、肖像館、美術館など大小14の博物館と動物園をもっており、世界最大の組織である。さらに、1992年には、航空宇宙館とキャピトルの間に「アメリカインディアン館」を建設し、オープンする予定だそうである。

自然史博物館

主展示室は2層になっており、動植物化石、恐竜、哺乳類、鳥、虫、鉱物、宝石、地球、および人類などの自然科学の標本展示と、アメリカ原住民、アジア、アフリカ、太平洋の人類文化の展示がなされている。収集標本は、8千万点におよんでいる。また、館内にディスカバリールームがあり、化石に触ったり、へびの皮を撫でたり、貝を分類したりし、体験しながら学習ができる。

1階の化石・恐竜ゾーンの1つのフロアでは、現在、大がかりな展示替の作業を行っていたが、その状況を一般入館者に窓越しに見せ、化石のクリーニング作業状況もリアルタイムでテレビに映しだしており、多くの子どもたちの関心を集めていた。

博物館の運営は、120人の科学者やスタッフがあたっており、展示については、企画段階から製作、展示、管理にいたるまで館職員によってなされている。

展示部門は、デザイン部、製作部、特別展示部から構成され、デザイン部はプラン、デザイン、研究のセクションに分れ、製作部はプログラム、製作、描画・作図、保守、音響・照明の各セクションに分れており、それぞ

れに広いスペースに必要な設備を整備し、仕事を進めている。

今まで見てきた博物館に比べ、スミソニアン博物館は、規模が大きく標本類も一段と豊富であるが、館内の明るさも暗く、展示方法についても、いささか古い感じである。

スミソニアン・ミュージアム・サポート・センター

ワシントンのスミソニアン建物群から9.7 km 南東のシルバーヒルに建っている。

センターは、1983年5月にオープンしたもので、スミソニアン各博物館の標本の保存および保存技術の研究を主たる業務としている。

センター設置のきっかけは、自然史館の標本類が増加し自然史館の資料庫が溢れ、その対策として検討したところにあるが、1960年から20年間に亘り構想し、近代設備を施し、多機能をもった同センターを完成した。建物規模は、約42,800 m² であり、総工費5千万ドルを要した。

収蔵部は、大きく4つに分れており、(1区画は、3000 m² 位の広さ)天井の高さは8.5 m ほどである。各区画は幅6 mの廊下で連結されている、また、廊下を挟んで研究室が配置され、廊下には重量物などの運搬を容易にするため縦横に動くホイストが設けられている。

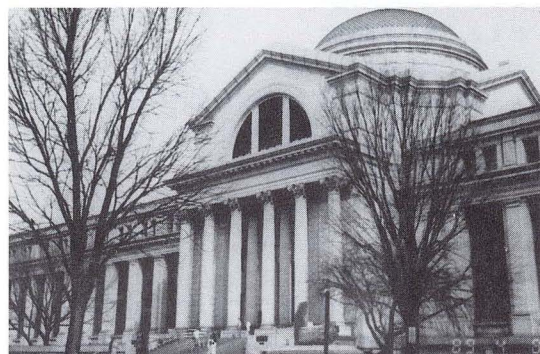
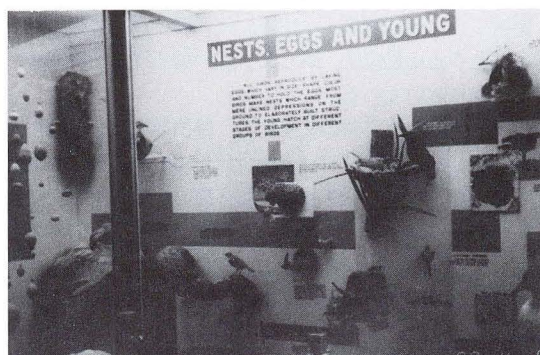
建物内には、空調、水道、電気およびスプリンクラーなどを設備し、実験室などには、塵埃ガスの排気管(エレファント・ノーズと呼んでいる。)、清浄空気、ガス、真空パイプ、浄化水を必要に応じ供給している。

建物内の主要部分の出入りと通過は、セキュリティセンターでチェックされており、IDカードと押ボタンとインターホーンで同センターに通報し出入口等を解錠してもらうようになっている。さらに、監視カメラにより所内の状況管理がなされている。

また、搬入口の近くには、クジラの骨の油を抜くため26立方メートルの処理槽と大形の冷凍庫が設けてあるなど個別の設備がなされている。

サポートセンター専属の研究員が150人ほどおり、独自に保存技術など標本の管理についての研究を行っている。一方、自然史博物館およびアメリカ歴史博物館の研究員も必要に応じ、センターの施設を単独に利用し、又はセンター研究員と共同で研究又は標本の処理などを行っている。

博物館に外部から持込まれた資料は、このセンターで調査分類、修復を行い展示できる状態にしている、また博物館で長期間展示したことにより、経年変化を生じ博物館内で修復できないものも、センターに持込まれ専門家により修復を行っている。



スミソニアン自然史館の展示(上)
スミソニアン自然史館の入口(下)

スミソニアン・エジプト・センター

博物館の立並ぶモールから2 kmほど離れた所にある。

当所は、主としてスミソニアン全体の展示についてのコンサルタント的機能をもっており、製作スタッフを揃えている。全体で243人の陣容をもちグラフィック、造形などの開発検討を行い、さらには、パッケージデザインなどの検討も行っている。

また、各国巡回の企画展示も当所が担当しており、訪問した時には1989年7月に開く「火山展」の製作を手掛けており、博物館のキュレーターと協議しながら、展示のプロジェクトを進めていた。

キャピタル子ども博物館

ワシントン3番街のユニオンステーションからほど近いところに建っている3階建てのレンガ造りで、1876年に設置された博物館であり、子ども博物館の草分け的存在であると言われている。

博物館というよりも、児童館的な施設であり、その内容は子どもたちの作品展示、料理、交通、重さ、音、手話など、生活につながった広汎な事柄を題材として、活動を展開している。

パソコンも早い時期から導入され、キーをタッチすることにより音楽を奏でたり、文字をかいいたり、計算などができるようにセットされ、子どもたちが親しめるような工夫が施されている。

中国の古いことわざから引用した「聞いたことは忘れる、見たことは思出す、試したことは憶える」を活動の基本理念においている。

アメリカでは、学校の先生は、“博物館を自分自身の教材”として、活用しているように見える。どの博物館でも先生が子どもたちを引連れて入館し、自分が中心になって子どもたちに説明したり、一緒に実験したりしており、先生が博物館を利用するときの積極的でたくましい心構えのようなものを感じる。このキャピタル子ども博物館においても、何人かの先生がそれぞれに大勢の子どもとともに授業を展開していた。

ボストン子ども博物館

ボストン市の中心から東、ボストン湾に面して建っている。1913年に創設され、1980年に現在の位置に移った。

当館は、子どもたちに体験学習の中から科学、文化、社会、生活などを幅広く学ばせようとしている。館の標語は「聞いたことは忘れる。見たことは思い出す。試したことは理解する。」としており、キャピタル子ども博物館とともに同じ理念を掲げている。

展示品の種類は、広範であり、巨大なシャボン玉、いろいろなシャボン膜、ボールの斜面落下、身体の動きと道具の動き、動きの分解映像、ビニール水槽に魚を飼育し上下から泳ぎを見せるなどユニークな展示ばかりである。

館内に実物の住宅の一部が取込まれている。一つは、アメリカの住宅の地階から3階の屋根裏部屋までの4階建て、地下には配管があり家庭で使われる屋外作業用具が置かれている、1階は、玄関、居間、台所、2階には、こどもの部屋などがあり、戸棚、机、椅子、ベッド、テレビ、洗濯機、冷蔵庫、流し、水道および種々な生活用具が全て動く状態で置かれており、子どもたちが自由に触ったり動かしたりしている。

もう一つの住宅は、京都の町屋造りの2階建てである。建物の前の通路は、両側から軒先が突出し、縦格子、犬矢来などがあり京都の町並の雰囲気をも十分に感じることができる。1階は、六畳二間と八畳と台所があり、日本の台所用品が備えられている、食器などは、日本のお菓子の外箱などで飾ってある、さらに便所までついている。2階は、六畳と八畳で茶の炉がきられている。子どもたちは、部屋のなかで敷布団のうえにゴロ寝をしたり、お手玉をしたり、テーブルの前に正座したり、日本的な生活の体験をしている。しかし、子どもたちのなかには、靴を脱ぐことに不安をいだき泣き出すものもあった。

この展示してある建物は、ボストン市と姉妹都市である京都市から贈られたもので、150年位昔のものである。

当館には、120人の職員がおり、館内全域で子どもたちの指導にあたっている。

ボストン科学博物館

チャールズ川のダムの上の景色の良い所に建てられた3層の建物である。

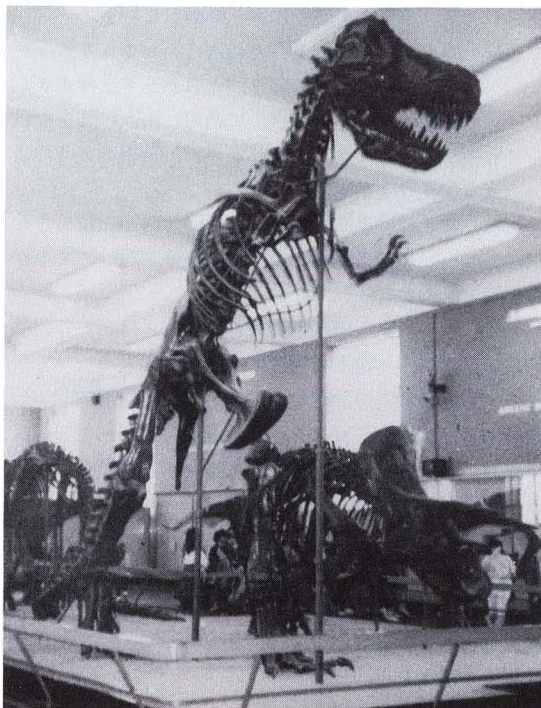
常設展示は、哺乳類、鳥類、昆虫、恐竜化石、機械、エネルギー、航空宇宙など一般の科学系博物館のベーシック的なものに加えて、高電圧空中放電装置、人の生命誕生の過程（人間の胎児の標本等）、小動物（昆虫、へびなど）の飼育、動物を題材にした彫刻などいくつかのユニークな展示がなされている。

特別展示も大きなスペースをとって行われ、見学時には、「ゴールド」と題する展示を行っており、金の産状標本、装飾品を展示し、金の加工実演を行い、入館者には砂金の洗い出しをさせていた。

これらの展示の他、70mmフィルムを使って360°スクリーンに投影するオムニシアター、プラネタリウムがあり、それぞれ時刻を決めて上演している。時間が丁度良かったのでオムニシアターを見た、題名は“素晴らしき人体の演出”とでも訳すのか登山、スキー、ダンスなどを題材に体の動き、細胞の働きなどを30～40分見せてくれた。

また、エスカレーターの裏側や水飲用冷水器の側板をプラスチックにして内部機構を見せるなどしており、細かい配慮が伺われる。

受け付けでは、「TODAY'S PROGRAMS」を配布し、一般的な案内、催物案内、注意事項を衆知を図っている。



アメリカ自然史館

アメリカ自然史博物館

ニューヨーク市セントラルパークの西側にあり、アメリカが誇る有数の自然史博物館である。1869年に設置された5層の広大な建物である。

自然史全般にわたり豊富な資料を用い、1000 m² 近い数十の展示室に厚みのある展示がなされている。

哺乳類は、アフリカの哺乳類、アジアの哺乳類、ニューヨークの哺乳類等8つの展示室に展開されており、アフリカの哺乳類の展示室は、2層になっており、中央吹抜け部分に10頭程のアフリカゾウの剥製を展示し、1層目の壁面および2層目回廊壁面には、大きなジオラマが作られ、ダイナミックな展示がなされている。

鳥類、魚類、無脊椎動物、爬虫類、貝類、恐竜、鉱物、人間それぞれに2～5の展示室を用いて展示している。

展示品のなかには、ティラノサウルスの全身骨格化石、恐竜のミイラ、31トンの巨大隕石などがあり、他の博物館では見ることの出来ない貴重な標本に出会うことができる。

この他、プラネタリウム、大スクリーン劇場が設置されている。

大規模な博物館では、豊富な標本に接することはできるが、館職員等による積極的な解説をうけることはできないようである。(警備要員は配置されているが、解説する人は、中規模博物館のように配置されていないので、インフォメーションなどを利用することになる。

視察を終えて

単独の行動なので「特にみたいところ」は十分な時間をかけたり、二度見たりすることが出来たのは非常に都合が良かった。しかし、各館の展示の特徴点など概括的に把握したに過ぎず、個々の展示の意図であるとか、博物館との接触のしかたなど利用する側のありかたなども把握しなかったが、そこまでは及ばなかった。

◎ 見学した科学系博物館は、それぞれの考えにより整備されており、一概にまとめられないが、概観を整理してみた。

1. 動植物、地学など一般的な自然物を対象とした展示の他、人類の文化史についての展示に相当なウェイトを置いている。



アメリカ自然史館の展示

ただし、エジプト、ギリシャ、ローマの人類文化史については、一般に美術史として扱われ自然史の対象となっていない。

2. 植物に関する展示が極めて少ない。
3. テーマの設定が、地域的、地方的である。(例. 南アフリカの哺乳類)
4. 地球史的なものを一つにまとめて扱った展示が少ない。
5. 展示の展開が、シーケンスにあまり拘っていない、むしろグループを重点にしている。
6. ボランティアが館内の要所々々で解説および展示案内をしている。
7. ディスカバリールームを設け、一般入館者に開放している。

以上で視察内容紹介を終え、最後に、この機会を与えて頂いた諸澤館長はじめお世話になった皆様に心より感謝します。

また、振り返ってみると一片の視察に過ぎた部分もあり、不十分な点は先方に問合わせしながら整理しているところでもあり、海外の博物館事情に詳しい方々の情報等を頂きたいと存じます。

訪問館リスト

- CARIFORNIA ACADEMY OF SCIENCES
Golden Gate Park, San Francisco CA. 94118
Tel. 415-221-5100
- LAWRENCE HALL OF SCIENCE
UNIVERSITY OF CALIFORNIA
Berkley, California 94720
- THE EXPLORATORIUM
3601 Lyon St., San Francisco CA. 94123
Tel. 415-563-7337
- DENVER MUSEUM OF NATURAL HISTORY
City Park, Denver CO. 80205
Tel. 303-575-3872
- NATIONAL MUSEUM OF NATURAL HISTORY
10th St. and Constitution Ave., N.W.,
Smithsonian Institution, Washington DC.
20560 Tel. 202-357-2664
- CAPITAL CHILDREN'S MUSEUM
800 Third St., N.E., Washington DC. 20002
Tel. 202-543-8600
- CHILDREN'S MUSEUM
Museum Wharf, 300 Congress St., Boston
MA. 02210
Tel. 617-426-6500
- AMERICAN MUSEUM OF NATURAL HISTORY
79th St. & Central Park West, New York
NY. 10024
Tel. 212-873-1300

〔全科協米国科学系博物館視察研修報告 4〕

全科協米国科学系博物館視察研修に参加して

(株) パリスアート工房 清水弥太郎

今回の米国科学系博物館の視察にあたって、全科協事務局により調査事項の案が用意されておりました。その内容は8項目に大別されています。私は現在の仕事の立場から、「博物館活動の普及啓発及び広報について — (1)博物館ニュース・ポスター、(2)広報活動について」のテーマを選び、視察に参加し、その現場を観てまいりましたが、残念ながら言葉の障害はいかんともしがたく、十分なコミュニケーションがとれず、具体的な内容を聞き出すに至らなかったことです。それでも視覚でとらえたイメージはしっかり残り、集めまくった資料を整理しながら、今回のツアー内容の豊富なことには驚くばかりです。もっとも二週間の間にあの広いアメリカの6都市、9館の博物館を駆け回ったのですから。

入手した資料の大半はMuseum Shop で求めたものです。どの博物館のShop も大変充実した内容で、来館記念に求める一般的なガイドブック・ポスター・絵ハガキ・グッズ類をはじめ、子供から大人向け、そして研究者向けの専門書に至る出版物がズラリ揃っています。単なる観光目的で寄ったにしろ、このShop に入るとそこには目新しいものがいっぱいの広場です。もちろん博物館によって特色の差はありますが、科学をととても日常的にとらえています。博物館の特色は、そこに収蔵された展示物・展示の方法にあるのですが、一方Shop における広報活動も大きな役割を担っているようです。その一つに会員制度を実施しています。日本では「友の会」と言う形式で会員を募集していますが、アメリカの博物館のほとんどは「会員になって割引などの特典を利用しよう!」とパンフレットで呼びかけています。

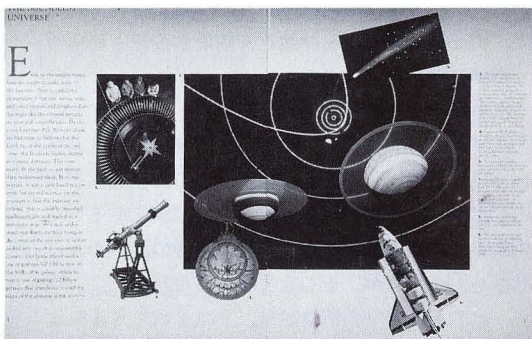
では、国立科学博物館で実施されている教育普及活動の広報活動を比較してみると

- (1)行事ポスター (3ヶ月間の行事予定)
- (2)展示ガイドブック (邦文、英文の2種)
- (3)たんけんノート
- (4)国立科学博物館ニュース (月刊)
- (5)教育普及活動年間計画表
- (6)特別展ポスター及び図録
- (7)友の会ごあんない

以上の7つに分類されます。(1)の行事ポスターはどこかの博物館からも入手することができず、これはひょっとして国立科学博物館のオリジナルかと思っています。米国の博物館ではガイドブックにビジター用とオフィシャル用とあり、ビジターは無料で、オフィシャル用は有料が多いようです。

＜ガイドブックの一例＞

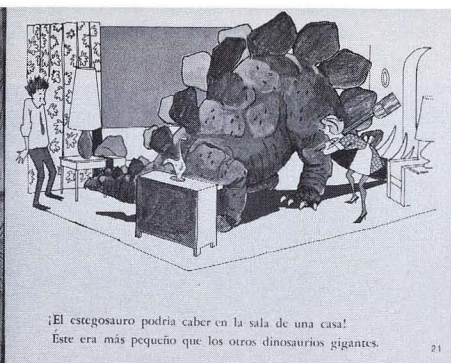
- 1) California ACADEMY of SCIENCES
A 4判/36頁カラー 4度刷り \$4.25



ヴィジュアル中心に見開き2頁単位で構成

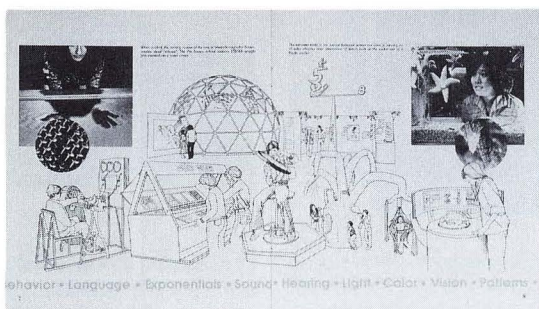


スペイン語版の絵本



2) The Exploratorium の展示ガイドブック

B 5 判変形, 24頁, スミ 1 色刷り 無料



とてもわかりやすいイラストで見開き紙面を構成

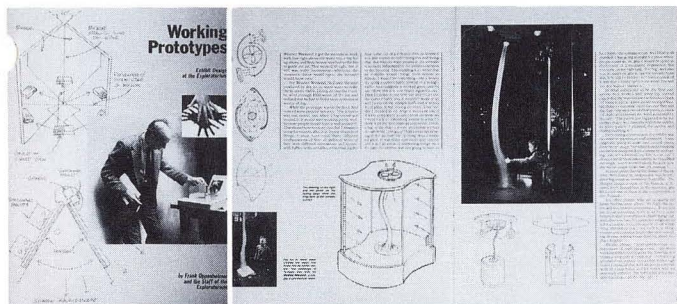
この他にもガイドブック等は参考になるものが多いですが紙面の都合で省略させていただき、機関誌で目についたものいくつか紹介したいと思います。

○エクスプロラトリウム館: Working Prototypes

(A 4 判32頁, オッペンハイマー博士とスタッフによる展示デザイン(方法)を解説したもの)

○カルフォルニアアカデミーオブサイエンス: RESEARCH (A 4 判52頁, タイトルに示すように各分野の研究者がどのようにして資料を収集するのかドキュメントタッチで写真を多く使って解説)

○スミソニアン博物館: Smithsonian (A 4 判オールカラー 230 頁, 月刊誌 さすがスミソニアンの機関誌だけあって完全なマガジンとして有料(\$ 2.50)で頒布, 定期贈読者(メンバーシップ)を呼びかけている。



エクスプロラトリウム/ワーキングプロトタイプの表紙(左)と見開き2頁の内容: たつ巻きがなぜ起きるかの実験装置はとても人気を呼んでいる。

全般に目を移すとどうしても散漫的になってしまいますので、ここでシカゴの「フィールド自然史博物館」を取り上げてご紹介したいと思います。

フィールド自然史博物館の広報活動

ここは最後の公式訪問として訪れた博物館で、植物、動物、地質、人類と4部門で構成され、とくに植物類に力を入れ、特色を出しています。1993年に100年祭を迎えるとのことで、5年前より継続するものと変革するものとに分けて検討を進めているそうです。また新しい計画に、学者の意見だけでなく、民間の意見を取り入れる Voice President が加わりました。

主な検討事項として

- ・もっと研究したい人達のための図書館、フィルムライブラリーの充実。
- ・教育に力を入れる一学校を主としているので学生に魅力あるものを計画。
- ・Educational Programs (A 4 変形8頁)を配布して希望をとっている。
- ・ファミリーの周りにもと、Adult, Children & Family プログラムを作成し、普及活動の一環として3ヶ月間の行事を掲載、登録すれば誰でも入手できる。A 4 判, 12頁, 2色刷り)
- ・特別企画展に対する一般の反応の確認
- ・科学者が今どのようなことを研究しているか。それをどのような方法で展示したら効果的か準備をすすめるなど。

以上の中には、すでに実施にうつされたものもあり、新しい企画や出版物が他にも多数準備されているようだった。

刊行物

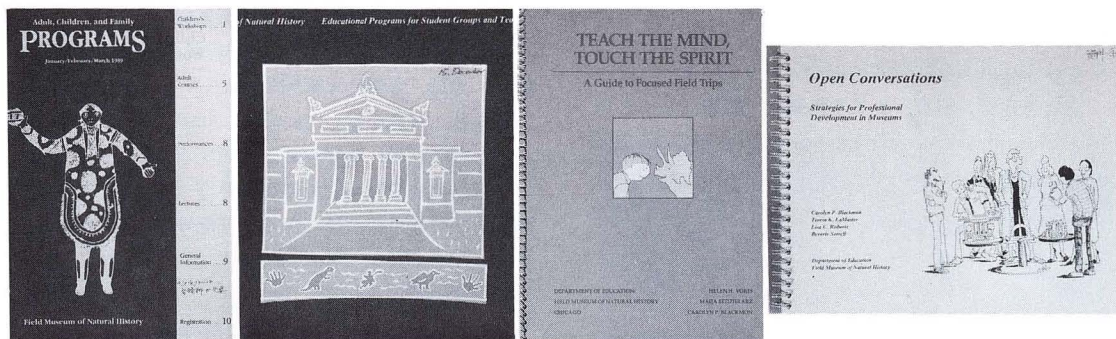
- ・ビジターガイドブック…B 5 判変形, 6 P 3 っ折り
- ・オフィシャルガイドブック…B 5 判28頁, 4 色刷り
- ・会報(月間誌)…国際版34頁, 4 色刷り, (有料\$ 2.00) その月のイベントの紹介・特集記事3~4本, 館企画のツアー紹介, 新しい展示のごあんない等で編集され, ミュージアムショップでは\$ 2.00 で入手できる。

教育資料として

- ・「TEACH THE MIND, TOUCH THE SPIRIT」という素晴らしいタイトルの教科書で, A 4 判80頁もあり, パート I からパート IV までの4部構成。学生を対象にQ & A形式を取り入れた細部にわたる解説はきっと良い参考になるものと思われます。
- ・「Open Conversations」A 4 判, 122 頁。

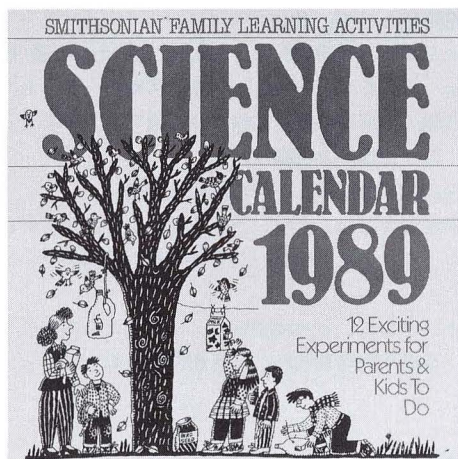
館内のメンバーで編集したもので、非常にユニークな教育解説書。

以上の2冊は今回のツアー参加者全員が入手していますのでご利用下さい。



フィールド自然史博物館の出版物(左から①～④)

①ビジター用ガイドブック。3ヶ月分の行事が掲載されている。2色刷でイラスト・写真入り。②オフィシャル用ガイドブック。1年間の教育普及活動表で、最後のページはアンケートになっている。③「TEACH THE MIND, TOUCH THE SPIRIT」の表紙は明るい黄色。イラストも可愛いらしいものである。④「Open Conversation」は、博物館職員にも参考になる教科書。



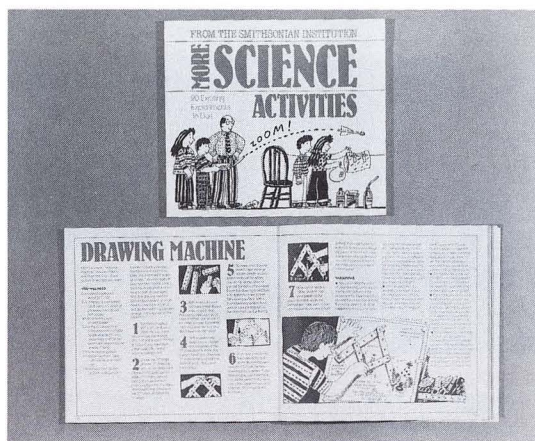
①サイエンスカレンダーの表紙

②各月毎にやさしい科学実験や工作が、材料、手順、解説等が楽しいイラストで紹介されている。この下に、日付曜日がついている。

Museum Shop

先に述べましたが、各博物館のShopにはそれぞれ独自の商品が豊富に取り揃っています。とくに恐竜をはじめとするポスターの量の多さは大変なもので、小冊子類も子供向けから大人向けまで幅広くそろっています。ポスター類は大きいサイズなのでここでの紹介は省き、スミソニアンで手に入れた「SCIENCE ACTIVITIES」及びその続編の2冊と同内容をカレンダーにした「SCIENCE CALENDAR」をご紹介します。

今回大変忙しかったことも事実ですが、聞くと見るでは大違い！この大なる刺激を大切に温ためて、じっくり時間をかけて良い作品を創りたいと念じております。太田団長をはじめ、皆様には大変お世話になり厚く御礼申し上げます。



「MORE SCIENCE ACTIVITIES」は科学を日常の中でとらえた解説書。写真は「製図器について」のページ。

全 科 協 北 か ら 南 か ら

全科協の理事会、総会

平成元年度全国科学博物館協議会の理事会及び総会が8月8日(火)国立科学博物館大会議室で開催された。出席館は43館、委任状提出館は64館であった。

最初に諸澤正道理事長からあいさつがあった。続いて事務局から会員館園の状況について説明があり、議事に入った。昭和63年度事業報告及び収支決算案、平成元年度事業計画及び収支予算について、それぞれ事務局から説明があり、討議の後、配布資料のとおり承認された。

昭和63年度事業報告の内容は、研究会の実施、機関誌の発行、全科協加盟科学系博物館の実態調査の実施、海外の科学博物館視察研修報告、会員館相互の協力事業の実施、科学系博物館に関する普及広報の各項目にわたり、昭和63年度収支決算の概要は次のとおりであった。

(収 入)	(支 出)
繰越金 1,515,618 円	事業費 1,971,500 円
会員会費 1,485,000	事務費 725,130
雑収入 379,142	予備費 0
寄付金 100,000	繰越金 783,130
計 3,479,760	計 3,479,760

平成元年度事業計画及び収支予算の概要は次のとおりである。

〔事業計画〕

- 研究会の実施
第19回全科協事業研究会を、「特別展について一企画から実施・評価まで」をテーマとして、年度末に実施する。
- 機関誌の発行
「全科協ニュース」を年6回(奇数月)発行する。
- 会員館相互の協力事業の実施
会員館園が実施する移動展、標本資料及び国立科学

博物館の特別展示の資料の貸借等に関して相互に協力し実施する。

4. 海外の科学系博物館視察研修の実施

会員館園の職員から希望を募り、アメリカ合衆国、カナダの科学系博物館における展示技術、教育普及活動等の視察研修旅行を実施する。

5. 科学系博物館に関する普及広報

全国科学系博物館協議会に未加入の科学系博物館に対して、入会の観誘を行う。

〔収支予算〕

(収 入)	(支 出)
繰越金 783,130 円	事業費 1,103,200 円
会員会費 1,496,000	事務費 564,380
雑収入 483,800	予備費 1,195,350
寄付金 100,000	
計 2,862,930	計 2,862,930

今回、新監事館の選出についての討議があった。電気通信科学館が本年6月末日をもって閉館したため、監事館を辞任することを了承し、新監事館にたばこと塩の博物館を選出した。

平成元年度から新入会の正会員館

- 熊本市立熊本博物館
- 黒部市吉田科学館
- 栃木県子ども総合科学館
- 高崎市少年科学館
- 伊勢原市立子ども科学館
- 飯田市美術博物館
- 工業技術院地質調査所地質標本館

なお、詳細については、加盟宛に送付した議事録及び加盟館名簿等をご覧ください。

スライド集「北九州の地層と化石」

北九州市立自然史博物館では、春の企画展「北九州の地層と化石」で紹介した内容とともに、教科書的な見事な露頭や化石を20枚のカラーズライドにし、解説をつけたスライド集を作成した。学校での補助教材、博物館の教育普及活動の資料としても利用価値の高い内容である。

同博物館では、今後シリーズとして続けていく予定であり、今回の「地層・岩石編」を製作実費で頒布している。

頒布価格：3500 円、内容：35mm カラーズライド20枚、解説書(26×30cm、ビニール硬表紙、23ページ)

申込先：北九州市立自然史博物館 Tel. 093-661-7308

MUSE-NET 再開

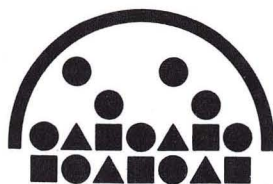
電気通信科学館をホストとして活動が続けてきたパソコン通信ネットワーク「MUSE-NET(ミューズネット)」は、同館の閉館後も存続することになった。

現在ホストコンピュータは、電気通信科学財団のご厚意により維持管理されており、全科協加盟館相互の連絡、情報交換に広く利用してもらえるようになっている。問い合わせ先：電気通信科学財団 担当：松本氏 Tel. 03-241-8080

名古屋市科学館と改称

市立名古屋科学館は、平成元年4月に新館「生命館」の建設と一部改修により、その外観・内容ともに一新した。これを機に、名称も「名古屋市科学館」と改称し、市民をはじめ多くの人々と科学との出会いの場として、一層の発展が期待されている。

この度、シンボルマークとマスコットキャラクターを設定した。シンボルマークは、地球とそこにあるさまざまなものとの調和をイメージしている。マスコットキャラクターは自由な発想によるもので愛称は「アサラ」という。アストロ（宇宙）、サイエンス（科学）、ライフ（生命）の頭文字をとって名づけられた。



シンボルマーク

マスコットキャラクター
“アサラ”

加盟館の特別展・企画展

- | | | |
|--------------------------|------------|--------------|
| ○「からくり時計写真展」 | 6.10～7.16 | 明石市立天文科学館 |
| ○「神奈川の鉱物——自然の中の小さな輝き——」 | 7.22～8.31 | 神奈川県立博物館 |
| ○第11回博物館夏休み学習室「塩のふしぎ'89」 | 7.15～9.3 | たばこと塩の博物館 |
| ○「ぼくらの昆虫展」 | 7.23～8.31 | 北九州市立自然史博物館 |
| ○「世界のカブト・クワガタ展」 | | 名和昆虫博物館 |
| ○「深海」 | 7.20～11.12 | 富山市科学文化センター |
| ○「エキスポラトリウム展」 | 6.17～10.10 | 科学技術館 |
| ○「三浦半島の植物」 | | 横須賀市自然博物館 |
| ○「神奈川の鉱物」 | | 神奈川県立博物館 |
| ○「海のファンタジー 貝の科学展」 | | 京都市青少年科学センター |
| ○「ふしぎ体験ビックリ箱」 | 7.22～30 | 広島市こども文化科学館 |

加盟館園の出版物

- | | |
|---|-------------------------------|
| ○香川県自然科学館研究報告 第11巻 1989 | ○秋田県立博物館研究報告 第14号 1989 |
| ○野外学習シート 第5集（昭和63年度） | ○東三河の自然と人を語る（館報18号） 1989.3 |
| 香川県自然科学館 | 鳳来寺山自然科学博物館 |
| ○昭和63年度青少年科学活動促進事業報告 1989.3 | ○五島プラネタリウム学芸報 第15集 1989.6 |
| 和歌山県立自然博物館 | 天文博物館五島プラネタリウム |
| ○続かがわの木の実 緑化推進シリーズXI | ○群馬県立歴史博物館調査報告書 第5号 1989.3 |
| 香川県自然科学館 | ○群馬県立歴史博物館紀要 第10号 1989.3 |
| ○プラネタリウム学芸報 No.2 1989.3 | ○群馬県立歴史博物館所蔵資料目録 民俗 1989.3 |
| 千葉県立郷土博物館 | ○秋田県立博物館研究報告 第14号 1989.3 |
| ○第2回梅見のつどい資料目録 府中市郷土の森博物館 | ○熊本博物館館報 No.5 「新館10年のあゆみ」1988 |
| ○横浜こども科学館 展示案内〔改訂版〕1989.2 | 熊本市立熊本博物館 |
| ○岩手県立博物館研究報告第4号 1986 | ○海と川に親しむ（展示解説第7集） |
| ○倉敷市立自然史博物館研究報告 第1号 1986 | 和歌山県立自然博物館 |
| ○鉱業博物館 第21号 昭和63年度 | ○特別展解説書「アユ」 和歌山県立自然博物館 |
| 秋田大学鉱山学部付属鉱業博物館 | ○特別展解説書「深海」 富山市科学文化センター |
| ○たばこと塩の博物館研究紀要 第3号 江戸のメカニズム——からくりから機械へ—— 1989.3 | ○サイエンスガイドNo.8「星空観察」 岐阜市科学館 |
| ○サンシャインプラネタリウム10年の記録 1988 | ○穂別町立博物館報 第6号（昭和63年度） 1989.7 |
| ○埼玉県立自然史博物館研究報告 第7号 1989.3 | ○国立科学博物館概要 平成元年度 1989.7 |
| | ○国立科学博物館年報 平成元年度 1987.7 |